

設立趣旨

社団法人社区大学全国促進会(NAPCU、略して全促会)は1999年9月19日、正式に設立されました。台湾において社区大学は、民間が促進する教育及び社会改革運動の一環であり、その設立目的は「知識の開放」と「市民社会の促進」です。社区大学がエリートによる教育の現実離れ化を打破し、大人が自己を、そして他者や現代社会を認識して成長できるような手段となるよう、期待されております。

1998年、台北市で全国初の「台北市文山社区大学」が設立された後、台湾各地で数多くの社区大学が設立され、成人による高等教育学習への新しい思潮が生まれました。社区大学と社区コミュニティー、社区住民が結合し、繰り返し共に学び、考え、討論することで具体的な実践行動が規律化され、人々の素養をより豊富なものとし、台湾に新しい「市民社会」の文化が創造されることが、その願いであります。



知識の開放
市民社会の促進



社団法人社区大学全国促進會

ホームページ：<http://www.napcu.org.tw/website/>

参加者団体の紹介：

社団法人地域大学全国促進会

社団法人地域大学全国促進会(NAPCU、略して全促会)は1999年9月19日、正式に設立されました。台湾において地域大学は、民間が促進する教育及び社会改革運動の一環であり、その設立目的は「知識の開放」と「国民社会の促進」です。全国促進会は、地域大学の設立趣旨が達成できるよう、全国各地の地域大学をまとめ、それぞれの地域大学で培われた経験を累積し、様々な困難への解決策を共有し、将来の地域大学の全体的な発展に向けた長期的プランを規律するために設立されました。

そして、河川に関する国民の認識を深め、官民の一致協力が必要であるとの見地から、全国の政府の要請と支援を受けて設立されました。

河川講習会の開催、河川愛護思想の高揚と実践、および水防訓練の奨励を3大事業として活動を開始しました。今日まで、協会を構成する地方公共団体、各政府の河川協会、および建設関連企業等の会員が一体となって、治水・利水政策の研究、河川の知識の普及、治水・利水事業の促進等の諸事業に取り組み、国土の保全と発展に寄与してきました。

このような長年にわたる成果を踏まえ、国民にとって安全かつ快適で自然豊かな川づくりのために、近年各種の環境問題が地球規模へと拡大する状況の中で、河川に対する自然志向が一段と強まり、その一方で様々な河川利用に対する要望も強くなっていくなど、河川に対する社会的関心の高まりに並行して地域住民や地域団体による川にかかわる諸活動が活発化してきたことが背景になっています。

今後の協会活動は、従来の行政機関中心の河川事業促進活動に加えて、大勢の方々に個人会員になっていただき、全国的規模で河川文化の発展のために幅広い活動を展開していこうとするものです。

中華民国社区营造学会

1996年、正式に成立されました。社区大学がだんだん知られるようになってきたが、人々が社区大学に対して持つイメージはそれぞれ違う。また、各地方政府が社区大学に対する位置付けもそれぞれ違う。これからの社区大学は、発展の多元化により新たな公共領域になると思われる。

社団法人台湾千里步道協会

2006年4月23日、台湾の綺麗な景色と人文の美しさを守るため、千里步道協会は正式に設立されました。四季を通じて手軽に、楽しく、安全に自らの足で歩くことを通じて、豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的としています。協会が計画し、みんなと一緒に整備を進めています。

水害管理監督協会

2006年1月13日、立法院は1160億の「易淹水地区での水害を管理する特別な条例」と250億の「石門ダムと貯水区を整備する特別な条例」2つの特別な条例、合計1410億元の治水する経費を

通しました。2009年8月の莫拉克の災害後、また曾文のダム沈泥堆積のため、540億の「曾文南化烏山頭のダムの管理と南部地区の安定的な給水のための特別な条例」を増加しました。

台湾の永續発展のため、民間の草の根環境グループは、現在の水害にたいして、もう単純な水利工事の問題ではなくと思ひ、さらに国土、社会、経済、政治などの問題で、決して政府の水利技術官僚に頼って解決できるものではありません。このため、「水害の管理監督連盟」を共に設置して、台湾の水害と水の環境関心を持つ民衆、コミュニティ団体、環境生態団体、専門家と学者皆繋がることを望んで、心を1つ『洪水の共生と』の水害の管理策略を探し出して、既定の「専門治水」の利益と現在「管理無効」の体制に挑戦したいのです。

台南社区大学

台南社区大学は、単なる地域住民のためにつくられた大学ではなく、公民大学の普遍性に加えて地域性を持つものである。その過程内容の特徴を、以下の6つに整理してみた。

1. 内容は実務向き

学術専門の人材培養を目的とするものではないので、過程内容は社会生活と結びついている。

(例：台湾社会の公共実務の討論など)

2. 内容は地域事務と結びつく

地域との関心と活動実行能力の培養を目的としており、各過程と地域との結びつきを促進する。

3. 生徒は自ら社団を組み、地域と結びつく

社団過程内容は生徒自主で社団を作って行うことであり、地域活動への参加が主要な内容となっている。

4. 地域通信教育

いろいろな学習手段を使って、地域活動や地域活動を動かしていくことを目的としている。

5. 地域活動人材の培養
地域住民の生涯教育の展開と地域人材の培養を目的としている。伝統大学では地域人材の培養に関する過程をあまり設けていないので、社区大学の発展のポイントといえる。

6. 地域との相互作用を引き起こす

いろいろなイベントを行うことで、地域住民と社区大学を結びつける。より地域に合う社区大学をつくるために地域との交流も大切である。

美濃愛郷協進会

美濃愛郷協進会は1994年に正式に登録、成立したが、その活動は1992年12月10日の公聴会開催に遡る。当初、その中心となったのが李允斐および鍾永豊、鍾秀梅兄妹が結成した「第七小組工作室」であった。

協進会は美濃の客家集落、農村としての貴重さを学術的に裏付け、客家文化や農村の保護としてのダム建設反対を訴えた。またこの豊富な先行研究のために大学院生が美濃をフィールドワークの対象とする傍ら、ダム建設反対運動に参加した。その参加形態はデモなどに参加するほか、ダム建設反対の根拠となる言説を学術的に再生産するという形態である。この結果、協進会には学術的資源が豊富に蓄積されるとともに、協進会内での学術的議論や徹底した思考を要求される議論を若者が

深夜まで続けるという事態が恒常化した。

高雄市緑の協会

1991、草の根の力は台湾の南に向上し、社会の各階層から台湾に関心を持って、郷を愛する人々、高雄都会に生態と環境が破壊されている問題向かって、郷の感情から反省の強い力へ、政治の反対運動から自然生態悪化にたいしての反対運動へにかわつて、波のような緑の運動がおきました。私達の台湾の環境運動に対する行動の理念を拡大するため、1994年6月10日、高雄市緑の協会を創立して、高雄地区の永続人文生態環境を懸念が主軸にして、そして「非党派の特性、財務の独立、合法性」を強調するNGOの精神を持ち、積極的に環境保護の理想を実行します。

当会は、創立してから民間社会の各界のサポートに支えられて、成功に衛武營自然公園を保留し、高屏溪の保護運動を推進し、半屏山鉦山区の善後処理の問題をよく監視し、そして高雄都会公園の緑化の推進し、高雄都会の河川管理と水の優しい環境の作りの重要性を呼びかけ、持続的に一万ケイの平原の森を作る運動を推進し、そして関る保育団体との合力で、共に柴山の生態保育を保護し、反核運動に参加し、曾文ダムの上越り引水ことに反対し、さまざまな環境保護の課題の政策に監督するのなど多く行動しました。

将来、努力して行く方向は、上述の行動のつつきの以外、都市公園の開拓とその監督、環境教育の推進、生態の都市の進め、空気汚染の監督、永続キャンパスの環境保護の監督、また生態の文学の推進などを努力したいのです。

高雄市文化愛河協會

愛河に関しては94年に文化愛河協会が発足し、長年にわたってコンクリートの堤防の取り壊しと、河川と近隣の住居を隔てる河西路の撤去を求めてきた。河西路の車両通行停止を要求するために、交通量を調べたこともある。そして今日、これらの要求は実現したのである。

高雄市は重苦しい重工業都市から現代的な美的都市へと変わり、人と空間のつながりと都市や地域へのアイデンティティも確立した。

高雄の景観を一望したければ、ビジョン館に行ってみよう。ゴーグルとヘッドホンをつければ鳥になって高雄の上空を飛び、緑のベルトのような愛河を見下ろすことができる。

培根規劃設計有限公司

Empower Plan & Design Co., Ltd

★發展目標：社会力を結び付ける、共に永続的な郷を持続作成する。

★價值觀：学習、信賴、統合

★未來展望：

(1) 参加型ランニングで、民衆と共に学習する

民衆と一緒に「学びの中からする、するの中から学ぶ」自主的、自力的に環境改善の学びを楽しめ、互いの学び合いの過程を通してに相互学習の環境を作ることを体験すること。

(2) 参加型ランニングで、民衆との信賴関係の元からパートナーシップを作る

本社から業者やコミュニティへのサービス、いつも心から相手に信用感を与える約束を履行し、コ

コミュニティ/業者の各状況によって最も適する計画を立てる協力をいれ、共に信頼関係の元からパートナーシップを発展したいのです。

(3) 参加型ランニングで、各資源を統合する

民衆が環境プランニングに参加する各段階に、討論からの決議によって、各専門家の参加に求め、および各協力できる資源を探して、1つ各資源を適当に利用できる統合性プラットフォームを創立します。

電話：+886-7-3523898

住所：高雄市楠梓區楠梓路 269 巷 12 号 1 階

台湾藍色東港溪保護協会

1993年に屏東の環境保護メンバーが南横国道開拓計画に反対したことをきっかけに、大武山の生態環境を保護するために地方から公共議題に対して注目が集まるようになった。1997年にはこれら生態環境の保護に対する共通意識を深めるため、民間の関心のパワーを、住民の成長の記憶と密接に関係している溪流整備の議題へと注目が集まるように持っていき、3月に正式に「藍色東港溪保護協会」が設立された。

当会の組織の目的は、だんだん汚染を受ける東港谷川の復活ができることを望むので、そのため生態のバランスの主張する原則に基づいて、だんだん東港谷川流域のコミュニティを結び付け、公民の参与を創造し、共に河川生態の自然な倫理と親しくなりを推進し、そして沿岸の人文環境の経営と土地倫理の創立によって、河川生態と人文環境回復の目標を目指します。

そして河川に関する事務に関心する専門家として、また公部門とコミュニティを繋がる役で、情報の交流、人材の育成、産業推進するプラットフォームの作り、そして長期にコミュニティの守り、屏東短大の青年の育成、さらに、屏東コミュニティの発展を向上を指します。

2009年8月に莫拉克台風の連続48時間豪雨で、ごく短い3日の内に2700ミリメートルの雨量を降って、屏東に22以上のタウンや町(全県の2/3タウンや町を占める)が災害を受けて、3万4000家庭の県民が災難に籠られました。当会はすぐ被災者の助けや災後の再建など尽くしました。災後再建に、実践の空間と学習の課題として、気候変動の時代にむかって、総合治水と流域の管理は当今の重要な課題でを思いながら、コミュニティ再建に関して無視することができなく、これから、当会はその関心と参加もつついて行くのです。

社団法人屏東県緑元気産業交流促進會

屏東県緑元気産業交流促進會は屏東科技大学農産業などの専門家と学者、そして高樹郷の理念の持った実務者が結成し、2004年3月15日に設立された民間団体です。設立当初は屏東県政府に協働し、「屏東県地域産業交流センター：高樹元気館」に進駐し、その空間の経営管理、それに高樹郷の地域産業づくりとマーケティング、まちづくりの事を行っています。また、促進會では、地域の産業・文化の体験・交流活動を通じて、水害後の地域活性化を支援する取り組みがなされています。